

# からす新聞

第10号

## ゴールはどこだ？

### 受験は終わった

受験は終わった。けれども、君たちはどこへ行くのか。君たちはまだ生まれたばかりのひよつ子、ひよ娘だ。さあ、今、何がやりたいか言ってみる。やりたいことがあるやつは頑張れ。やりたいことがないやつは歩け。前を見て歩け。

発行所 東京都中野区中央5丁目1番2号西田ビル4階 〒164-0011 からす新聞本社 電話03-3382-5963 ©からす新聞本社  
 からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : shachio@st.rim.or.jp

勉強嫌が多いということ、それは今に始まったことではない。小中学生だった頃を振り返ると、友人の大半が勉強嫌いであった。私だけでなく誰だっけと似たり寄つたりの記憶があるはずだ。せっかく備わっている脳みそを使わずに生きるのもつたいない。実際、頭を使ったほうがいい、という考え方に異を唱える者は多くはない。にもかかわらず、生徒たちの勉強嫌いとはなかなかのものである。同じ頭を使うのもクイズやゲームなら厭わないのに、何が彼らを勉強嫌にさせるのか。

さて、ここで既に学生生活を卒業してしまつた人々に問いたい。果たして、今でもあなたは勉強が嫌いだろうか。統計を取つたわけではないので、正確な数字などわからない。したがって、ここからは、飽くまでも経験と直感に基づいて述べることになるが、かつての勉強嫌いのうちの何割かは勉強が嫌いではなくなっているに違いない。寧ろ、勉強好きになつていく人々さえいるはずだ。どうだろうか。何が斯様な変化を齎したのだろうか。例えば、勉強しなかつたことを後悔するような場面に出合つたのかもしれない。あるいは、仕事上、必要に迫られて勉強しているうちに、勉強の面白みに気づいたのかもしれない。理由は様々に想像できるが、一番大きな要因は、勉強を強いられなくなつたことなのではないか。

オートバイが壊れているときには自転車を出かける。仕事柄、帰りはかなり遅いことが多い。えつちらおつちら家路を急ぎ、ペダルを踏む。前方の暗がり人が立っているなあ、と思つて近づいてみると、そこにいるのは警察官だつた。そんな経験はないだろうか。「はい、ちよつと止まりなさい」と行く手を塞がれた経験はないだろうか。何をしたいのかといつと、自転車の登録番号を照会したいといつのである。なるほど、そういうことか。命令口調で呼び止めて、なおかつ、私を自転車窃盗犯ではないかと疑っているわけだ。彼らは任務に忠実なだけだし、そのおかげで日本は治安の良い国だといつ定評を得ているにせよ、こんな対応が愉快なはずはない。何となく疑われている少なくとも信頼されてはいない) ような気分になるのである。

試験が近づいてきたから勉強しないと、と思つた矢先に、あんだ、ちやんと勉強してのー! などという母親からの攻撃に合う。一気にやる気がなくなつちやつたよ。こんな話は日常茶飯事。試験前一週間の家庭学習の予定表を書いて提出し、などといふ命令が学校から出たりもする。「試験前に予定表書くのに時間使つたんでおかしいよ。勉強したほうがいいじゃん」という声を聞く

(六面に続く)

今日の紙面

- 二面(オラ面)  
松本と話そう。ピン、ボン、パン  
ダジャレイ・ヌーヴォー
- 三面(芸術面?)  
レイズ・キャラー  
詩 二編
- 四面(アメリカンレポート)  
ヤンヒボ
- 五面(世界面)  
中国へ行くこうー  
原志?
- 六面(教養・トピックス)  
世紀末天気予報

からす新聞は学習塾カラーズが母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行している新聞です。誰でも自由に参加できます(無茶じゃない範囲で)。



## 松本と話そう。ピン、ポン、パン

今日は10代の人達にビートルズの話しよう。

仕事柄、君ら10代の連中と毎日のように会っているが、こっちがビートルズやジョン・レノンの話を振るととても反応がいい。「ビートルズって、ジョン・レノンとポール・マッカートニーと、あと何だっけリンゴなんとかって人と...あと誰だっけ?」どのアルバムがいいんですか。何かお勧めを「えっ、イエスタデイってジョンが作ったんじゃないんですか。」「イマジンってビートルズじゃないんですか。」「何でジョン・レノンは殺されたんですか。」「オノ・ヨーコって日本人なんですよ。」「Loveって歌、最高ですね。」

世代的にはかけ離れているのに10代のハートをかなりつかんでいる。それを示しているのをもう1つ。ロッキン・オンという洋楽雑誌 何と今や洋楽系の中で発行部数1位なんだと。俺が中高生のときはまだ怪しいマニアックなもんだったんだよ。のバンドメンバー募集欄に出ている告知文の中に「好きなバンドはビートルズや や××...」なんてよく見る。年齢を見ると10代 20代前半だったりする。

ちなみに俺が10代の時、「ビートルズが好き」なんてとても言いにくい雰囲気があった。イギリス産では、ニューウェイブ系(こういうジャンルがあったんだよ)で、なるべく人が知らない様なマニアなバンドをたくさん知っていて、それが好きだというのがクールだった。(今、思うとかなり格好悪いよね。本当の話、クラスにいた、城南町という田舎町出身の松本君は休み時間に人にバレないようにまるで英単語を覚えるかのように「ブルー・ロンド・ア・ラ・ターク」って何度も紙に書きなぐっていたのを俺に目撃された。

まあ、そういう中で、超メジャー級の「ビートルズ」を好きだなどと宣言することは、男でブラパンに入って野暮な奴と同じような地位に落ちるようなものだった。

今の君ら10代は、全然、肩に力入ってない。洋楽だろうが、邦楽だろうが、古かろうが新しかろうが何ら偏見なく素直に感じているように思える。だからなんだだろうね、音として出てくるものもそういう垣根を取っ払った洋・邦・古・新素直に融けたようなものだったりする。宇多田ヒカルなんか、絶対に俺の世代では出なかつたと思うよ。(ちなみに、藤圭子の娘なんだってな。君ら知ってる?)

ビートルズは1960年代のバンドだけでも、元メンバーは死んでいたりと、おやじだったりするけども、学校の教科書にも出てきたりもするけども、関係ない。奴らのエネルギーやら、オーラやら、フェロモンやら、ちゃんとキャッチ されている。

え、何? じゃあ俺はいつビートルズを好きになったかって?

浪人中。18才のとき。何かでピリピリしてた。適当にテレビの音が部屋には流れていた。そのとき心の中にフワッとテレビからのメロディと声が入り込んできて体内の全細胞を覚醒させると同時に麻痺させた。「Words are flowing out like endless rain into a paper cup...」。それはビートルズの「Across the Universe」という曲だった。(詞・曲ともジョンの作品)それからというもの、徐々に彼らのアルバムを一枚、一枚、大切に買っていた。(周りに大声では言わず。)そして、今や、この有り様。

もちろん、その時以来、いろんなミュージシャンを聴き好きになった。けども、いつの間にかビートルズは特別なものになっていた。いや、特別と言ってもはダメだ。毎日、吸う空気や、飲む水のようなもの。全くもって日常生活で当たり前存在するものようになってしまった。いや、でもだからこそ、やっぱり特別だ。なきゃ、死ぬんだから。

なんでこんなになったか。それは肝心なとき、きついついとき、いつも周りに鳴っていたのは不思議とジョンの声とメロディだったから。一例を恥ずかしいが告白しよう。青かった頃、急に右も左も上も下も見失ったとき、独り夕方の砧公園で聴いていたのは「In My Life」(詞・曲ともジョン、途中、サビのメロディは、ポールが手屯っている、間奏のピアノ・ソロは、彼らのプロデューサーだったジョージ・マーティン)。精神のバンド・エイドになってくれたね。

多分、64才になった時もビートルズが鳴ってるだろうな。

自分の想いや、それにまつわる話はこれまでにして、彼ら自体の話しよう。

メンバーは、ジョン・レノン(G・Vo)、ポール・マッカートニー(B・Vo)、ジョージ・ハリスン(G・Vo)、リンゴ・スター(D・Vo)。全員、英国のリバプール生まれ。

1957年、ジョンのバンド、「クオリーメン」にポールを誘い、加入。(ジョンは16才、ポール15才のとき)のち、ジョージがまるでストーカーのようにバンドに付いて回るようになり根負けしたのと、私生活で色々使えるという理由で加入が認められた。(そのときジョン17才、ポールはまだ15才、ジョージは14才)リンゴの加入はまだずっと後のことだった。

時は経ち1962年、あらゆる面でタフになった彼らはすでに改名していた「ビートルズ」というバンド名で、シングル「Love Me Do」でデビュー!!

リンゴの加入はその直前のこと。「Love Me Do」の録音には間に合わずそこではリンゴはドラムを演っていない。

(次号につづく)



ぼくたちは明日生まれる  
03-3220-4679  
<http://www.go-zeta.com/>

ダジャレイ・ヌーヴオー

お題 ひな祭り・ホワイトデー

ひな祭りにひまな釣?(たく)

ホワイトデーの服装はホワイト

で?(たく)

ホワイトウデイ?(しゃちお)

## Rei's Gallery



忘却

若尾喜重

怒りでさえ、月日の忘却には勝てないことを、わたしは知っている。

日常生活は、わたしの意志に反して、春の陽光のように、もの忘れて、無関心だ。想いだしてほしい。

かつて、あんなにもしっかりと手と手を重ねた男の感性も女の理想には勝てなかったことを。

若くある日、輝いていた女達よ。

妻となつたからといって、真実を曲げてまでも、天に同化することの美しさとはなんなのか。

ときとして、このような感受性が、わたしの人生を邪魔していると思うとき、わたしの孤独は、いっそうつるのだ。

陽春

佐藤良示

瀬戸の漣を背にうけて  
昇りつめるのは、麦の階段  
水面を奔る陽の光り

視線は、定まらず

徘徊するは、我が思い

陽春のカウンターで  
スケッチ色のウイスキーに

レプリカの氷を注げば  
踊る：踊る化粧したる

騎馬連隊……

現在のメモワール

過去からのプロバガンダ  
未来のレエゾン・デエトル

ばくえんなりし大空より  
舞い降りたる一枚の障子

沈む陽の光りを浴びて

映りしは、人間の影  
延先にて穴を開けて

内側を睥目すれば  
年老いた白髪の男性

陰影を帯びて佇む

刹那なる空白と

流れる時間の経過後

脳裡を横切った幻影

其れは、幾年後の我が姿なり。



## ヤンヒポの日本的日本人

さて今回もまたまた、編集者を悩ます話題に取り組んで行こう。そのうち、連載が中止になるかもしれない危険をふくみつつ、、、。

時は米国から戻って一週間ぐらいたった頃、2月半ばから開催されたイベントの準備に追われているなか急用が有り車の脇に寄せて携帯で電話をしていた。時間は午後4時半ぐらい確か金曜日だったと思う。すると一台の国家権力から派遣された車が自分の前に止まり、なかから新旧取り混ぜた職員が3人飛び出して来た。ヤンヒポは電話をしながらも気がついていたのだが、そんな事はおくびにも出さず一心に業務連絡を続けていた。その間、例の3人組はヤンヒポ車の前後と運転席のすぐ横に陣取り捕獲体制に入る。因に現場は靖国通り下り車線、新宿2丁目路上だ。ヤンヒポの業務連絡終了までじっと耐えている3人組の中の最年長者が運転席の横でニコヤカにたたずんでいる。そして電話終了の瞬間、間髪入れずに「お忙しい所申し訳ありませんが、免許書拝見」とこれもまたニコヤカに発声している。当然、やましい事が無く、頼まれたら嫌と言えないヤンヒポは気持ち良く運転免許証とパスポートを提示した。何を隠そう現在ヤンヒポはアメリカ合衆国発行の国際免許を行使している。日本国発行の免許証は故有って所持していないのだ。その国際免許を見た年配の男性はいかにも見慣れた素振りでも国際免許とパスポートを見比べている。ま、こちらも全て正式な手続きを経て運転する権利を行使しているので全く問題は無い。しかし、3人組の意図はそんな所に有った訳では無かった。一連の免許証確認の後、年配の男性はヤンヒポに向かって「この辺りがどういふ所かご存知ですか」と訪ねる。ヤンヒポの中で新宿2丁目という、出生時の性別を後天的、意図的に変更した方々が多く日々の糧の為に労働力を提供している町との認識があった。そんな解答を年配の男性すると、その男性は「良くご存知ですねえ、でもそれだけじゃ無いんですよ。」と付け加える。そこでヤンヒポは気がついたのだ。成程、自分は法律上非合法的な薬物を売買する方々の販売を担う人間だと思われたのだ。確かにヤンヒポの髪は金色に発色しているし大体年齢に於ても実際の歳よりは若く見られがちだ。大手のサラリーマンにはなかなか見てもらえない。その辺の経緯を理解したヤンヒポは時間的にも余裕が有ったので気持ち良く協力する事にした。その後の手順としては、車から降り後ろへ周り3人組の中の一人がヤンヒポに密着マークする。他の2人が車の中を徹底的にひっくり返す。当初3人組は確信していたようだ。「こいつは黒だ」と。しかしヤンヒポとしては何もやましい所が無いので普通にしていたのだ。しかし、調べると一言で言ってもその方法は生半可では無い。基本的に有りとあらゆる部分を調べる、室内とトランクを。当然ポケットの中身の提示も要求されはしたが、、、。何度も言うがヤンヒポはやましい所が無いので全く平然としていた。もし次の予定が有って急いでいる時なら文句の一つも言う所なのだろうがそんな気は起こらなかつた。結局、道端で30分ぐらい調べていただろうか。そ

の間ヤンヒポはマーカールと屈託の無い会話を楽しんでいた。

しばらくそんな時が過ぎて行き調べに当たっていた一人がパソコンバッグに入っていたアメリカ土産のちょっと変わった物を見て問題提起をしてきた。それは、日本国内でも売られているものではあるが携帯しているといけな物だったらしい。それは暴漢などに襲撃された際、電気ショックを持って防衛するタバコケースより少し大きめのツールだ。アメリカでは護身用として一般的な品物であり珍しい物では無い。しかし日本国内の法規では持ち歩くといけないようだ。3人組としては目的の物が見つからないのでそちらを問題にすることにしよう。結局、近くの本部まで同行して詳しく事情を説明することになった。ヤンヒポはその時の3人のホッとした表情を見逃す事は無かった。

本部までの道中は先導車の後に続いて自分で運転して行くのだが、当然隣には3人組の中の1人が同乗している。だいたい10分ぐらいの道中だったが、また異例な同乗者と話が弾んでしまった。その後、彼はヤンヒポの事を「社長！社長！」と呼ぶようになる。

本部に到着すると裏側の駐車場へ案内されて、再度徹底的に調べ始めた。今回は道端と違い派手に調べが可能のようだった。まだあきらめていないのだ。その内、建物内から何人もの人間が出てきて人だかりができる。ヤンヒポは話題の中心にいるのだ。少し鼻が高い。その中でも一番、位の高そうな人間が例の同乗者から事情を聞いている。するとアメリカ帰りのという部分に反応を見せていた。そして調べが終わり結局目的を果たせなかった彼らは、電気ショックツールの入っていた場所のポロロイド写真を撮ることにしよう。その中にはヤンヒポがツールの入っていた場所を指差してにっこり微笑んでいる写真も含まれている。

一連の屋外での作業が終了すると建物の中に案内されテレビ番組で良く出てくる例の一室に通された。目の前には例のツールが置かれ新顔の担当者がマーカールになっていた。その彼も妙に愛想が良く、わざわざ灰皿を持って来てくれてタバコを進めてくれる。その間、部屋の外ではどういふ処遇にするかを検討していたようだ。時折、初顔合わせの人間が入って来てはアメリカの生活について質問してくる。だれしもアメリカ生活には興味があるらしい。中には、アメリカの町を歩く時は常時武器を所持していないと全く外出も出来ないと思っている人間もいた。結局、ヤンヒポの処遇としては日米の生活習慣の違いという点と近々アメリカへ帰るという点が考慮され、お咎め無しという事になった。しかし彼らのシステム上そのまま帰る訳にもいかず、日本国内では持って歩かないという確約を一筆入れた。当然の事ながら問題になったツールも返却してもらった事は言うまでも無い。全ての手続きが終了して駐車場から車を出して公道へ出ていく際、最初の3人組が見送りに出てきてくれた。そして口々に「迷惑をけて申し訳なかったね」と謝辞を述べていた。当然、ヤンヒポは人が良いので返答は「とんでも無いです、こちらこそ大変お手数をおかけしました」と気持ち良く挨拶をかわしたのだ。

今回の一件で重要なポイントは全ての人間が幸せに終わった事だろう。最初の3人組の顔もたつたし、自分も時間は失ったが大した被害もなく、物質的な損失も無かった。登場人物全てがある程度満足できる結果に終わったのだ。人間、万事このような結果に終わると幸せを享受できるのに。ただ、よく考えると一番得をしたのはヤンヒポかもしれない、、、。

Ken-ichi Shinozaki, architect



5-12-3 Asagaya-Kita, Suginami-ku, Tokyo,  
Telephone & Facsimile: 81-3-3223-0456;  
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp  
篠崎健一アトリエ

## 中山歯科クリニック

診療時間 .....AM9:00 ~ PM9:00  
水曜・土曜 .....AM9:00 ~ PM6:00  
休診 .....日・祭日

03-3381-1109

## 原点シミュレーションその四 (イタリア・スペイン編)

まだまだ続く原点表現の旅。今回は、昔のことを思い出してしまったおかげでいくらか脱線気味だが、大目に見ていただきたい。(望月)

僕はひょんなことから知りあったイタリア人青年、アントニオに誘われるまま、彼の家へと上がり込んでしまっていた。ひょんなこととは、ローマの中華料理屋のおんぼろテレビでやっていたテレビアニメの原作者を教えた、ただそれだけのこと。「キューティーハニー」は永井豪の作品だ。

アントニオ、お母さん、お姉さん、そしてお父さんが、息を飲んでこちらのリアクションを待っている。俺の口のなかには、ちょっとロバート・デ・ニーロ似のハンサムなお父さん御手製のスパゲッティ・カルボナーラ。

ブオノ(buono)

これはイタリア語の'good'。もちろん「うまい」の意味で使って良い。

そんなイタリア語は知らない。英語は禁じ手。日本語?いや...。そんなことが一瞬頭を掠めているうちに、僕はただ何度もうなづいていた。あとは飲めや歌えやの無礼講ということになった。

スペインへ行ったらホセのところを訪ねてみる。そうアントニオにしつこく言われてやって来たのは、セビリヤという街。渡された電話番号を取り出そうとポケットに手をつっ込んだところに、見知らぬあんなちゃんが声を掛けてくる。

"Hello! Are you looking for a hotel?"

またしても英語。なぜ英語なのか。あんたスペイン人だろう。スペイン語はどうした...

何年前のこと。僕にはドイツ人の女の子とつきあってるスペイン人の友人がいた。この二人、僕の目の前で良く喧嘩をする。今日の議題は闘牛。

「カルチュラル!(スペイン訛り)= culture! = 文化だ!」

「アビューズ!(発音記号どおり)= abuse! = 虐待よ!」

延々とそんなふうやってる。そんなのどうしたって収拾のつかわけないのである。お前らどうでもいいから外でやれ。揚げ句の果てに、

「お前は どう思う?」「あなたは どう?」

You just like arguing, do you?

「あんたら議論したいだけなんだろう」他人の話聞きそうにならぬ人々には、自分の意見を述べる前に、まずこう言っておこう。

"Well..., in a sense, you know, culture is abuse!"(「そうだなあ... ある意味で、いいかい、文化とは虐待だ!」)

「芸術は爆発だ!」とか、そういう軽い乗りだった。他意はなかった。怒られた。そもそも Well も In a sense も you know も、みんないらぬのである。特に in a sense(ある意味で)は悪質。後でどんな「意味」なのか説明するつもりならいいが、どうせそんなのいないでしょ。やめた方がいい。

確かに彼らの議論は終始空転し続けていたが、微塵の疑いも持たず、闘牛に執拗なまでにこだわるスペイン人の姿には、力強い迫力を感じた。

ちょっとまでよ。でも、スペイン語で何か言われてもわからねえか。彼は彼で商売なんだし...。とにかくホテルの勧誘らしい。一瞬熱くなっ

## 中国へ行こう! 中井 裕子 第5回

### 中国の交通機関について

少し遠出をしたいと思うならば、電車やバスなどの運送機関を利用することが考えられます。

公共バスについてですが、北京の場合、2両連結になっているのが一般的で、料金は五角(約9円)です。バスは常に混んでいて、(日本のラッシュ時のよう...)ほとんど身動きがとれません。(このとき、中国人の人の多さを改めて実感しました)中国人は、乗り物に乗り込むのに必死になります。たとえ押し合いになってでも入ろうとするし、横入りも平気でやります。(向こうではそれが日常茶飯事だそうです。)

欧米に比べると、治安がよいといわれている中国ですが、最近スリが多くなっているそうです。スリをする為にバスに乗る人もいます。特にバスに乗るときは、引率の中国人の先生に、荷物を前に抱えて持つように言われました。

中国出身のこの先生でさえも、荷物を前に抱えていました。'外国人'である我々がもっと気をつけなければならないのは言うまでもありません。

ている。どうやら足が不自由であるらしい。

「相部屋だと安くなるよ。どう?一緒に」

そう彼は英語で話しかけてきた。なるほど。O.K. それ乗った。

彼はアイルランド人だった。英語教師の職を求めてこの地にやってきたのだという。その夜、互いに自己紹介などして、ひとしきりとりとめのない話で盛り上がった。彼は東洋に強い憧れを持っていると言った。

「僕、日本人の男って、大好きなんだ」

10年ぐらい前だろうか。当時イギリスにいた僕は、誘われては良くパーティーに出かけていた。その日は友だちのアパートに、約20人ほどの男女が集まった。ふと気がつくと、部屋の隅っこの方でべったりと仲良さそうにしている男が二人。彼らはカップルだった。ジョンとポール。え?それ本名?冗談みてえなコンビだな、お前たち。何はともあれお近付きになって、話は絵やら音楽やらの方に行っている。

Do you like Leonardo da Vinci?

「レオナルド・ダ・ヴィンチは好き?」

古来、数多くの偉大な芸術家が同性愛者であったといわれる。ここは彼らに敬意を表して、そのうちの一人といわれる人物の名を挙げてみてはどうだろうか。

"Do you like\* The Beatles?"(「ビートルズは好き?」)そう訊いてみた。すると、みるみる二人の顔色が紅潮した。わかりやすいなあ、白人は。

「ジョンとポールだからってビートルズと決め付けるな。大体発想が貧困なんだ。頭が固いんだ。俺たちを見てホモセクシュアルだからって差別してるんだろ!」

あらららら、何だか遠いところへ行っちゃってるぞ。自由、人権、そして偏見と抑圧。なるほど、君たちが大変なのはわかった。でも、そんなふうにしてたらますます自分の首を締めちゃうんじゃないのか。

「ブルース・リー。大ファンなんだ」

そう言ってアイリッシュの彼は両手を振り上げて、カンフーの真似をしてみせた。

(つづく)

\* The Beatles については、『松本と話そう。ピン、ボン、パン』を参照のこと。

# 世紀末天気予報 新井雄一

天気予報なるものが存在する第一の条件は、天気が変化することであろう。そういう意味で言うと、日本は天気予報の必要性が高い国であると言える。事実、天気予報のない一般的な新聞、テレビ、ラジオなど存在しない。

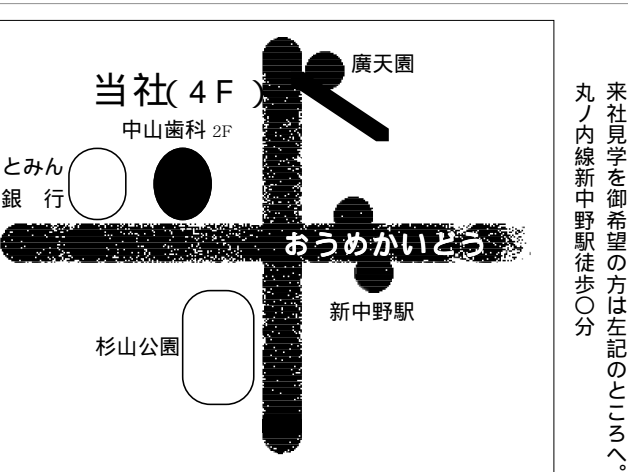
そしてまた、この気象の変化は私達の暮らしを豊かにも過酷にもし、なおかつこの様な気象条件を持つ国が世界的に観ても数多く存在しないことも、事実だ。恵まれた気候であるかは別として、四季があり、台風だってやって来る。

話は変わる。気象衛星の登場で、天気予報はがらり一変した。今世紀の話だ。二十一世紀にはどんな秘密兵器が登場し、百年後の天気予報がどんなものなのか、想像も出来ない。人の暮らしぶりはどうなっている

(一面の続き)

くことがある。彼が予定表を書く時間も惜しむほど実際に勉強しているかどうかはさておいて、ふわ、生徒の嘆きもある意味ではもっともである。ややこしいのは、母親たちも学校の先生たちもそれに、警察官も、誰もが、良かれと思っ

あるのかよ、そんな具合に感じるだろう。おいしそつに見えれば、さつさと飲めるだろうけれど、そうでない場合、嫌だなあ飲みたくないなあと暫し躊躇してからいよいよ飲み干すことになる。同じことに取り組みにしても、そのときの精神状態に応じて、過程の時間が変化するばかりでなく、結果にも差が生じる(さつと)例えば、好きなことなら覚えられるのに歴史の年号だとからつきし駄目だ、などなど)。ポジティブに取り組むのと仕方ないからやるのとでは大きな違いがある。たったひとつ、このことだけを意識していてくれれば...



来社見学を御希望の方は左記のところへ。丸ノ内線新中野駅徒歩〇分

のか、私は墓の下で確かめる術はないが、四季に準じて生きていることは、今と変わらないのではないか。なぜなら、世の中がどんなに変わろうとも、百年や二百年で日本が熱帯や砂漠やツンドラになるとは考えにくく、季節を無視して生きるなんて難しい詰まらないと思うからだ。真夏だった艦Uウスに行けばスキーは出来るが、新雪パウダーを夢見て冬の到来を心待ちにしないスキーヤーはいないだろうし、今となっては一年中食べられる秋刀魚にしても、秋のものはひと味違う。日本人の遊び心は、季節の変化を無視できないはずだ。年中、台風や大雪だったら、ちっとも面白くなんかない。たまにだからワクワクしたりもする。

住む国は、ある程度選択することが出来るのに対して、何処で生まれるかは選択出来ないことを考えると、四季のある国に生まれたことは、とりあえず私にとって幸運だったと言える。なぜなら、熱帯の島に生まれた人は、もう少し涼しい亜熱帯に移住する事はあっても、寒帯や亜寒帯に憧れ移り住むわけではないだろうし、カナダ東部極北のイヌイットは、モントリオール下ってアル中になることはあっても、サントドミンゴでアル中になることはない。それなりに暑い夏と、それなりに寒い冬を私達は経験することができる。その後何処に住もうが個人の自由だ。私は今のところ日本から出るつもりはない。生まれてこの方、東京以外で暮らしたことがない私にとっては、南の島も北の大地もそれなりに魅力的だし行ってみたいくはあるが、そこで私が暮らすということは、アル中中性廃人化を意味する、と私のDNAは言っている。

遊び心は生活習慣や食生活だけでなく、言葉にも多く見られる。数ある日本語の一部しか使いこなせない私のボキャ貧ぶりはさておき、以下は、私の好きな気象用語春編。

- 春一番** ご存じの様に、春を告げる南西の疾風。元は、この風に煽られて漁船が転覆し、乗組員53人全員が死亡するという事故以来、漁師達が言い出した言葉。語感からは想像もできない謂われが、この言葉の裏にはあったのだ。  
**The first gale blowing in spring.**
- 花冷え** 桜の咲く頃、冬に戻ったように寒くなって冷え込むこと。洒落てるじゃないですか。品もよろしい。こう寒くちゃ花どころじゃないね、まったく。へえっしょん、ずずず。花冷えで、鼻水(花見ず)、寒いつ。
- 天気雨** 晴れと言わないで、天気にしたのがみそ。気違い雨もなかなか。へえー、こんな良い天気に雨だよ。春にどーにかなっちゃうのは、人間だけじゃないんだねえー。まっ、原稿も終わったことだし、気違い水でものみにいっか。誰だ、気違いに刃物なんて言っているのはっ。

## All We Need Is Love

1クラス4人までの少人数制学園塾

**シアス**

甲野区本町2-90-12 ドエル甲野201号  
03-3379-1431

編集後記  
からす新聞第十号、無事、発行できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひぜひお寄せ下さい。次号発行予定日は三月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

(全六)